



ダリマナ

校長室日記

~ 南の風 ~

令和元年6月4日(火)

第37号

《 おとぎのもり読書週間に寄せて 》

家庭でも本を読む習慣を！

本を読むといいことがありますか？ ⇒ たくましく生きる力を育む！

本を読むと、いろいろな人や言葉に出会えるため、自然と言葉の力が育まれます。それ以上に身に付くのが、「生きる力」です。なぜなら、本を読むことで日常生活では経験できないことを知り、感じることができます。また辛いときに、本に出てきた人物に勇気づけられたり、人の痛みがわかって優しくなれたりします。つまり本は、自分の未来の道を切り開く力を育んでくれます。

どんな本を読んだらいいですか？ ⇒ 「おもしろそう」だと思う本！

「本っておもしろい」と、楽しく読めることが大切です。ですから、絵本でもいいので、本人が「おもしろそう」「読めそう」と思うものが一番。そして、お子さんがどんな本を選ぼうと「ダメ出し」をせず、少しでも読めたら、「読めたね」とほめてあげることが大切なことです。

どうすれば一人で読めるようになりますか？ ⇒ 音読から始めよう！

最初は、声に出して読んでみるといいかもしれません。読めない漢字があると、読む気が失せてしまうのも事実です。本を選ぶときは、なるべくすべての漢字にふり仮名が振ってあるものを選び、読めたら「上手だね」「もう一回読んで」とほめ、読もうとする気持ちを応援してあげてください。

どんなときに本を読めばいいですか？ ⇒ 「朝の読書タイム」を設定！

10分でいいので、早起きして、「朝の読書タイム」を設けてはいかがでしょうか。現実から離れて本の世界に没頭することで、一日の始まりがグンと楽しくなります。それが、私が「朝の読書」を全国に広めた理由の一つでもあります。

親としてどのように協力すればいいのですか？ ⇒ 親が本を楽しむ！

お子さんと本についての会話をしたり、一緒に書店や図書館に行ったりと、本が身近になっている家庭が多いようです。「本屋さんや図書館に行ってみない？」と、お子さんを誘ってあげてください。きっと本と一緒に楽しむきっかけになるはずです。 < 朝の読書推進協議会理事長 大塚 笑子 >

大塚 笑子（おおつか えみこ） 朝の読書推進協議会理事長 岩手県生まれ 元高校教諭

1988年、林公教諭の「朝の読書」理論をいち早く理解し、学校の意見がまとまる前に自分のクラスで実践、大成功を収めて全校一斉への道を開いた。「朝の読書」最初の実践者。現在はその経験より全国で「朝の読書」の講演活動を行っている。著書に、『朝の読書 はじめの一步』『朝の読書 希望への一步』。